



## 「発達特性」と職場環境を考える ～発達障害の現在～

アスペルガーやADHD、発達障害など、聞いたことがあるのに詳しくは知らない。そんな人を知っておいてほしい知識をまとめました。

©Medical Trust All Rights Reserved.

### 発達障害って？

まず代表的な3つの発達障害の特性について説明しましょう。

#### 【自閉症スペクトラム障害 (ASD)】

「目でみる情報の方が理解しやすい」「相手の気持ちが読み取りにくい」「予期しない変化はとても不安」。冗談が通じにくかったり、婉曲な言い回しではなく問題などをズバリと指摘してしまい周囲とハレーションを引き起こすといったことは、こうした特性から起こりがちな事例です。

#### 【注意欠陥多動性障害 (ADHD)】

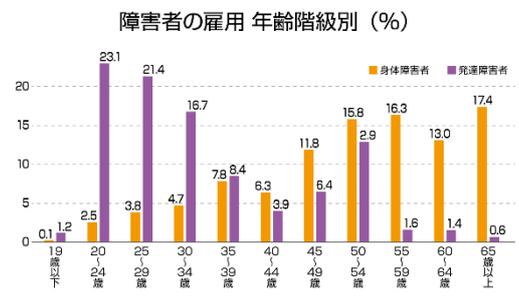
ADHDは、不注意・多動性・衝動性の3つが大きな特徴と言われており、忘れ物が多かったり、順序だてて物事に取り組むことが苦手だったりします。

#### 【学習障害 (LD)】

全般的な知的発達の遅れはないものの「聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する」の能力のうち、特定のものが苦手です。

ここまで3つの障害の特徴を並べてきました。しかしASDとADHDは、併発することが少なくありません。併発率を6～8割とした研究もあるほどです。しかも発達の特性は、「ある」「なし」と明確に分けられるものではなく、連続体(スペクトラム)だと言われるようになりました。つまり発達障害と診断されてもその特性には強弱もあるのです。

近年、発達障害が大きく報じられるようになった理由の一つが、人数の増加であり、その傾向は障害者雇用にも大きな影響を与えています。右のグラフは身体障害者と発達障害者の年齢別の雇用人数割合ですが、年齢が若くなるほど発達障害者の数が増えていることがわかるでしょう。高齢になって退職していく身体障害者に代わり、発達障害者が企業内に増えていくのは、ほぼ間違いないでしょう。



### 企業での活用が期待される発達障害者

海外では発達障害者の高いスキルを活用しようといった動きが広がっています。当初はIT関連企業での動きでしたが、メーカーや金融分野でもイノベーションをもたらす人材としての期待が高まっています。2021年には、日本国内の発達障害者人材の未活躍による経済損失額を、推計2.3兆円と野村総合研究所が発表しました。今後、人手不足がより深刻化する中で、発達障害者の能力を活用しようという動きはより強まっていくでしょう。